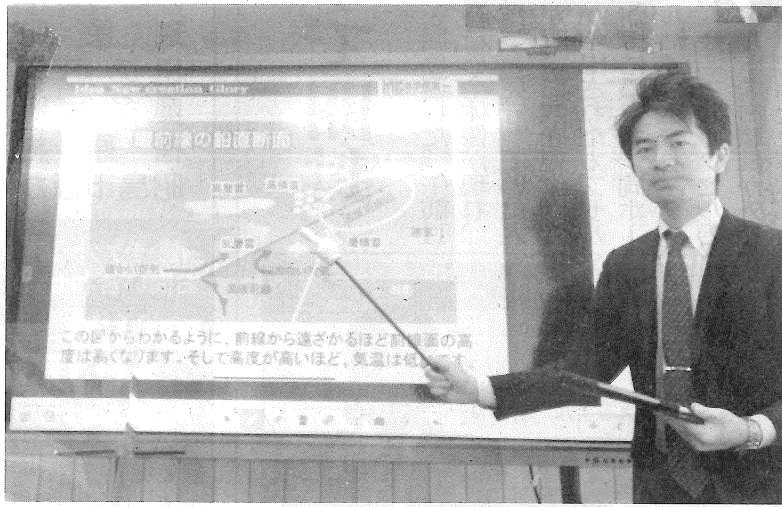


オンラインでリースクール

青梅市 学光社

西多摩地域を中心に 青梅市河辺町)は、4
進学教室を展開する学 月から不登校の小中学
光社(岡田弘行代表・ 生を対象に、タブレット



ト端末を使ったオンラインのリースクールの開校した。写真。コロナ禍で増加する不登校問題への試みが注目されている。

同スクールはタブレット端末に人工知能(AI)を搭載し、オンライン授業を一步進めて「学習経歴と習熟度の見える化」に注力。オンライン学習も含めて、学習の経歴が記録され習得度合いや履修が把握できる点が特徴だ。

小学生は国語、算数の2教科。中学生は国語、数学、英語、社会、理科の5教科(共に月額3万3千円)を履修科目とし、個別指導は1対1で電子黒板と最新のタブレットを進める。週1回個別のオンライン指導のほか、専任講師が生徒と保護者

とカウンセリングなど心のケアを行う。

同社では「誰ひとり置き去りにしないという理念のもと低額で質の高い学びの場を提供する」とし、個人の履修経歴を学校に提出することで、「学校長の裁量で履修が各学年の修了認定につながる可能性もある」という。

しかし同じ学習記録でも卒業認定に至らないケースもある。学校教育の目的である集団の中で社会性を醸成する観点では教科科目の習得だけでは解決しない点もあるが、学習の習熟度が把握できる点は注目されており、市町村によっては「社会性」の規定について教育委員会がガイドラインを設ける試みも動き出しているという。

岡田代表は「コロナ

が長引くことで学校に行けなくなる理由が多様化、不登校が増加する要因が出てきた。子どもたちの個性やニーズに合わせた学びの場を提供したい」と「習熟度を把握して面談も含めて子どもと保護者の不安を和らげられるよう取り組みたい。学習意欲の低下を食い止めることで登校への一助にもなるのではないかと話す。